

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590700076		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく3号館		
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20		
自己評価作成日	平成27年10月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成27年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々とつながりも年を増すごとに広がり深まりが出てきました。夕涼み会の行事も参加される方が増え、避難訓練での駆けつけ協力、職員とともに消火器を使った消火訓練にも参加していただいております。運営推進会議ではご家族様地域の方々が一気兼ねなく意見を出して下さるような雰囲気になってきております。職員は常に利用者様を中心に置き、ホームで生き生きと生活していただけるためにはどうしたらよいか、どのように接してあげることが利用者様らしい暮らしに結びついていくのかを優先に考え支援するよう心がけております。24時間自動換気型の空調システムと全館バリアフリーにより、快適かつ安全に暮らせる場を提供できております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年目に入り、地域との関わりを大切にしている姿勢がみられます。利用者が自分らしい暮らしを続けていくために、過去の経験や得意なこと、できることを見い出してその人の楽しみに繋がることや役割を日々の暮らしに活かせるように支援の仕方を考えながら、理念の実現に向けて努力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念:					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「一緒のケア、そして理想を現実に」を理念に掲げ、常に目に付くところに貼って意識づけている。それを基に毎月目標や個々のケアプランを作成し、利用者様と接している。	理念の実現を目指して介護目標を設定し、一人ひとりに合わせた支援の仕方を考えながら実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつながり 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議や各行事、子供会の廃品回収などを通じて地域の方との交流を図っている。今年度の町内会の会議に参加できなかったため、来年度は参加したい。	新興住宅地にあり、地域との繋がりが難しい状況ながら、避難訓練の協力やホームで行われる様々な行事を通じて交流する機会が増えてきています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域向け広報を発行し、認知症についての理解を得るようにしている。運営推進会議においても認知症に関する情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方、行政の方など、第三者からの観点を大事にし、そこで出た意見をサービスに生かすように努めている。	会議は定期的開催されており、ホームへの理解と協力が得られる機会として有効に活用されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議等を通じて協力関係を築いている。また、困難事例に関しては都度、包括支援センターに相談に行き早期に解決できるよう取り組んでいる。	地域ケア会議には行政も参加されており、また、包括支援センターとも連携し、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種研修会を通じて職員は理解し、身体拘束を行わないケアを行っている。	外部研修の内容はミーティングで伝えられる等、職員が身体拘束をしないケアが実践できるように取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止について社内研修で取り上げたり、研修会に参加してもらったりしている。日々の業務の中でも虐待とみなされることに関して都度話し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者の方で利用されている方はいないが、その事業や制度について社内研修で取り上げ、学ぶ機会を確保するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、又は改定の際は必ずご家族や利用者様に聞いてもらい、ご理解納得していただくようにしている。管理者のみならず、スタッフも説明できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議への参加や面会時にもお話を聞くようにしている。苦情、要望と思われるものは書面化し今後のサービスに生かせるようにしている。	家族からは面会時や電話で話を聞くようにしており、意見や要望の引き出しに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティング以外にも、常日頃から管理者へ相談できる環境を作っている。管理者は職員から出た意見を調整会議で代表者に伝えるようにしている。	職員が意見を言いやすいように、管理者が日常的に気配りし、出された意見や提案が調整会議に諮られて改善等に繋がり、反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当のアップなど、やりがいに結び付くよう職場環境を整えるように努めている。病気や妊娠などで通常業務ができない職員に対してのシフトにも配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加できるシフトを配慮してくれたり、現在の職員の力量にあった研修に参加できるよう機会を確保してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホームネットワーク会という会で情報交換できている。職員は研修に参加した際同業者との情報交換ができており、他事業所の事例をレポートで職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してホームで暮らせるようなでも本人に確認するようにしている。その会話の中でご本人様を知ろうと努め、情報を職員で共有し、良い関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が一番困っていること、又は望んでいることを親身になって聞くように心掛けている。話を聞いてあげることで安心感を持っていただけるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していくうえで、人生の先輩として敬い、色々なことを学んでいる。手伝っていただけること、出来る事を大切に、一緒に行うことで関係を築こうと努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通信で利用者様の様子を伝えると共に、行事や面会、電話などでご家族と話す時間を取るよう心掛けている。会話の中からお本人を知ることが多かったのもそのような機会を大切に良い関係を築こうと努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会やご家族との外出、電話等での連絡を直接行っていただける環境を作っている。友人や、美容師時代のお弟子さんにも面会に来ていただいている。	利用者の職歴や趣味、家族との関係等、これまでの生活を尊重し、継続できるように支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性は把握できている。得意分野を生かし裁縫やブローなど、他の利用者さんの為にあげたり、関わりあう機会を多く持ち関係性を良好に保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会やお見舞いなどに出掛けている。包括支援センターとも連携し、サービス終了後も必要に応じて相談に乗ってあげたり話を聞いてあげたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の意向に沿った支援を行っている。思いや行動を記録することで本人の意向に沿ったケアにつながるように努めている。	利用者の話したこと等を日々詳細に記録し、全職員が情報を共有して本人の理解と意向の把握に努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の生活での気づき、会話の中からの生活歴などの情報を書き留め、これまでの暮らしの把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕のバイタル測定はもちろんのこと、表情や言動などにも注意し、利用者様の状態を把握するように努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、ケアプランの更新時にはご本人はもとより、ご家族の意向を伺い現状に合った介護計画を作成している。	介護計画に基づいた記録となるように様式を見直し、モニタリングに活かされています。アセスメントを基に担当職員を中心にして、本人、家族の意向が反映された介護計画となるように管理者が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の思いや、職員の気づきなどを書き込める記録様式にし、毎日の申し送りや毎月のミーティングで情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの床屋さんや行きつけの美容院へ通ったり、スーパーと一緒に買い物に行ったりしている。もみの気さんのボランティアマッサージも受けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向に沿ったかかりつけ医で医療の支援を受けている。協力医は月2回の往診があり、歯科に関しては訪問診療を行っており、適切な医療を受けられる体制である。	入居前からのかかりつけ医で受診されている方には職員が対応されています。ほとんどの利用者が協力医による往診を受けており、状況は家族に報告されています。かかりつけ薬局とも連携されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回訪問看護師が来てくれることで利用者さんの身体的な部分で気になるところを相談し、必要に応じては受診につなげるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時はできるだけ面会に行くとともに、担当看護師と連絡を取り合い、早期の退院支援に向け努力している。またご家族にも了承を得たうえで、医師との話し合いにも同席させていただく事がある。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り支援は今行っていないが、管理者が看取りの研修に参加するなどして、前向きに取り組み始めている。体調等みながらご家族には急変時や重度化した時の対応について話をしている。	これまで希望されることはなかったものの、研修に参加する等、今後に向けた支援を検討されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に来ていただいて実践訓練を行うようにしている。しかし実際に転倒骨折した際すぐに救急車を呼ぶ判断ができなかった例があった。繰り返しの実践訓練が必要だと痛感した。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の方の協力を得ながら避難訓練を実施している。自動火災通報装置への登録をお願いし、駆け付け、避難誘導、消火訓練も一緒に行っている。職員はミーティングの前に毎月非常口からの車椅子での避難訓練も行っている。	運営推進会議のメンバーがご近所ということもあり、訓練に協力されています。地震対応の訓練を含めて年3回実施され、発生する課題を次に活かせるように努力されています。	利用者を避難させる時の順番及び、二次避難先の確保について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人に合った対応を心掛け、ご本人が不快に感じないような言葉遣い、態度、声のトーンを意識して接するよう心掛けている。	利用者が話を理解しやすいように穏やかな対応を心がけています。トイレ誘導の際の言葉かけにも配慮されています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る洋服を実物を見せて選んでいただいたり、自分で着替えてもらったりしている。散歩や買い物に出掛けたいと訴える方もおり、出来るだけ思いに添うよう努力している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵、読書、散歩、など、自分のやりたいことをその方のペースに合わせてできるように、出来るだけ希望に添うよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	マニキュアをととても喜ばれて利用者さんには時々つけてあげている。以前美容師だった方にはお弟子さんが訪ねてきてくれて、毛染めやパーマをかけていって下さる。自分の好みの服を買いに行くこともある。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんが食事を楽しめるように臨機応変にメニュー変更するなど柔軟に対応している。誕生日の時は希望メニューを提供している。食材を切ったり、炒めたり、盛付してもらいなど一緒に準備、片付もしている。	誕生日には家族も一緒に食事をされ、夕涼み会には家族の他、地域の方々も招待して皆で楽しく食事ができるよう工夫されています。また、家庭的な食器を使用する配慮もみられます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量がわかるような記録にしており、刻みやミキサー食、おかゆなど、一人一人の状態に応じた形態や量で提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨きの声掛けをし行っている。義歯のある方は週2回義歯洗浄剤で消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムの把握に努め、出来るだけ共同トイレやポータブルトイレで排泄が出来るように支援している。一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけないような声掛け、対応をしている。	一人ひとりの状況に応じ、夜間のポータブルトイレの使用を併用してトイレでの排泄支援に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	りんごのすりおろしや、こまめな水分補給を促すなど、便秘予防に努めている。テレビ体操も取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の了承を得てから入浴して貰っている。利用者様の要望や精神面、身体面の状況によっては、午前入浴も行っている。安全面を考え2人介助を徹底し、安心して入浴できるよう支援している方もいる。	利用者の状況や希望に応じて1日おきの入浴を基本に支援されています。車椅子利用者や寝たきりの方の入浴にも安全に配慮した支援が行われています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に応じて居室で休養していただいたり、ソファで休息していただいたりしている。電気がついていた方がよい方にはそのように対応している。眠れない方にはじっくりと話を聞き不安をなくしてあげるよう努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する研修に参加したり、かかりつけ薬局に相談したりしている。服薬管理表を作成し、目的や副作用など再確認できるようにしている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前美容師だった方には入浴後のブローをお願いしたり、裁縫の得意な方にはボタン付け、刺繍などをお願いしている。塗り絵や将棋、花札、読書などの楽しみも支援できている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り支援している。日常的には、散歩や買物同行、選挙などご家族にもご協力いただいている。	紅葉狩りや芝居見物等を外出行事として企画し、また、家族の協力を得ながら利用者の要望に応えられるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、所持金は持っていないが、買物支援の時の支払いなどお願いしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を貸して欲しいという利用者様には子機をお貸しして自由に家族や友人とお話できるようにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンの開閉などご利用者様が自由に行っている。タペストリーで季節感を取り入れたり、行事の時の写真など飾ったりしている。夜間の照明は本人の希望する明るさにしている。消臭スプレーも適宜使用し不快な思いをしないようにしている。	ホーム内は段差がなく、共用部分は広くとられてゆとりが感じられます。ホールで過ごす利用者が多いことからソファを増やし、個々にリラックスできるように配慮されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをひとつ増やし、居間でゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。また、一人でゆっくり過ごしたい方へは居室での休養を促したりしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、自分の部屋であると認識できるように配慮している。	テレビ、座卓、タンス等が持ち込まれ、居室内は飾りたて過ぎることなく、中央に畳を設置した落ち着いた暮らせる環境となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からず困っていた方へは名札を入り口に貼っていたが、迷わないようになってからは本人の希望によりはずしている。全館バリアフリーなので安全に歩行できる。車椅子の方でも自走して頂いている。		